

羽ばたけ! TUT2021 報告書概要

2 系

B4

年

氏名

中川 竜希

参加プログラム名	Global Communication for Future Leaders
研修期間	2021 年 8 月 16 日 ~ 2021 年 9 月 3 日
研修先機関名・ 所在国	モナッシュカレッジ・オーストラリア
<u>研修の概要</u> （研修テーマや課題、目標・目的や主な研修活動内容、研修で達成したこと等を簡潔にまとめて書いてください。）	『Global Communication for Future Leaders』とはオーストラリアのモナッシュカレッジが主催する人材育成型のオンライン留学プログラムである。 本プログラムでは将来グローバルな分野で活躍する人材を育成するために、Zoom や Google ソフトを利用し、環境問題や文化の違い、コロナ禍における生活様式の変化など様々なトピックについて一人ひとりが考え、ロールプレイやクイズ、プレゼンテーションなどを通じて考えを深めつつ、英語を使うための力を身につけることを目標としている。 また、学外の活動として、現地学生との交流なども行い、日常会話における英語力の向上を図る。 私はこのプログラムで英語に対する苦手意識を克服し、今までは頭の中でしか理解していなかった英語での文法表現の方法であったり、翻訳からうまれる微妙なニュアンスの違いなどを実際にネイティブスピーカーと話すことで感覚的に掴むことができた。また、ボディランゲージやジェスチャーなどから相手の伝えたいニュアンスを読み取り、そしてそれらを応用し相手に伝えるという英語以外の部分での表現方法、それから、各国の文化および思考の違いについて理解を深めることができた。
<u>活動写真 1 枚</u> （修了証の写真でも可）	

羽ばたけ! TUT2021 報告書

研修内容

含める内容

- ① 参加の目的や動機
- ② 研修内容
- ③ 研修の成果、研修で獲得したもの、当初設定した行動目標の達成度、問題点
- ④ 今後の目標、課題、当初設定した「研修後に実践する行動目標」の見直し
- ⑤ その他感想など

※ 適宜、図や写真を含めていただいて構いません

※ ページ数は、2 ページ以上、10 ページ以下とします。

私がオンライン留学をしようと思った動機は海外旅行への憧れと、オンライン留学を行うことで自分の中で新たな価値観や考えに気付けると思ったからです。

私は正直なことを言うと、このコロナ禍の大学生活にうんざりしていました。授業はオンラインで楽しくないうえ、やる気も起きませんでした。サークル活動も禁止されており、唯一趣味であったドラムもこの弊害により練習することができませんでした。かと言って友達と満足に遊べるわけでもなく、なんのために大学に入ったかもよくわからなくなっていた頃、私は一人で Vlog などの動画をよく見ていました。その動画の一つに一人で海外旅行するという趣旨の動画があり、私はこれに非常に興味を持ち憧れました。しかし、コロナ禍において海外へ行くというのは最も難しい行為の一つであり、すぐに諦めました。そんな時、オンライン留学のための支援プログラムがあるという話を友達から聞きました。

私はすぐさま TUT の旧国際教育部門のホームページでそれを確認しました。私は海外旅行に興味があるものの、英語での会話に苦手意識を持っていたため、即断することはできませんでした。私が興味を持ったモナッシュカレッジのプログラムは中級者向けのプログラムで、当時 TOEIC のスコアも基準を満たしてはいませんでした。ですがレベルが高い環境に身をおくことで、英語に対する苦手意識への荒療治になると考え、Duolingo の試験を受けて新しいスコアを提出することで、なんとかプログラムへ参加することができました。

ここからは研修内容についての概要です。

実際の研修内容としては、平日毎日4時間に渡る英語の授業を行いました。授業では Zoom や Google サービスを駆使し、各々が考えを言語化し発表し合うことで、学習を楽しんでいるのが難しいこのコロナ禍においても学ぶこと本来の楽しさを維持した内容になっていたと感じました。テーマとしては、環境問題から文化の違い、それからコロナ禍における生活様式の移り変わりなど、今の時代を生きる私達一人ひとりが考えるべき重要なトピックを取り扱っていました。それらをテーマに単語の定義を調べて作文したり、各国の文化のエチケットについて調べプレゼンテーションを行ったり、スムールトークの会話内容を考え、ロールプレイをしたりと英語を使うことにフォーカスした授業内容となっていました。また、Zoom のブレイクアウトルームや Google ドキュメントの機能を駆使し、授業内容から勉強の環境に至るまで全てが新鮮で、たった3週間でしたが様々な知見を得るとともに、英語に慣れることができました。

私の目標は相変わらず海外へ一人で旅をすることです。ただ、今回のイベントを通じて英語に関心のあるクラスメイト達と出会い、彼らと旅行に行くのも良いなと思いました。ですが、どちらにせよ現時点での海外旅行は不可能です。ただ TOEIC の勉強をすることが英語を学ぶことではないとも感じました。今後は英語を使うことにフォーカスした勉強法を確立する必要があると感じました。直近では SDGs に関する英語のプログラムを受講する予定がありますので、それらを受けて今後の方針を考えたいと感じました。

今回の受講は私にとっては非常に大きな経験になったと思います。実際の海外留学と違い、時間や金銭的にリスクを負わないオンライン留学は、現時点における英語学習法の最適解であり、英語を学びたいと考えている全ての人々にオススメできるプログラムだと感じました。私自身英語学習のモチベーションは高まっており、今は勉強法に迷っている次第です。同じように学習法に困っている学生がいるのであれば、あまり深く考えずこういった環境に身をおいてみるのもありなのだと感じました。レベルの高いプログラムを受講したことによって感じた負担は大きかったものの、海外に身をおく留学と比べると精神的ストレスはまだまだ小さいものだと思います。ネット環境とパソコン、それから静かな場所さえ確保できるのであればどこでも受講できるので個人にかかる負担はそれほど大きいものではないはずです。もう一度受講できるのであればそうしたいと思えるような非常に良い経験でした。また、授業そのものも、日本の授業に比べかなり楽しく、最後まで飽きることなく受講することができました。その要因として、今回のプログラムは15人程度の生徒に対し、先生が一人につき、英語のクイズや英会話を実践するものであったため、一人ひとりの生徒を尊重し学ぶことができたため、各々が自分の考えを持ち、それをどのように相手に伝えるかをひたすら考える必要があったのだと思います。実際、授業はショートブレイクを挟むものの2時間続けて行われていましたが、集中力が途切れることなく学ぶことができたと思います。こういったアクティブラーニングは日本でも知られつつあるものの、オンライン学習する機会が増えたことでそれも難しくなったように感じます。日本での学習方法には改善の余地がまだまだあり、相手に関心を持たせ考えさせることが物事を教える上で非常に重要なのだとも感じました。肝心の英語力についても、全てのことを英語で話す授業を受けた影響で、日常生活においても英語のフレーズが思い浮かぶようになりました。また、今までは頭の中で学修分野として理解していただけの英語が、相手に意思を伝えるための手段となっていくのを感じ、ボディランゲージや表情を駆使して相手に伝える力の基礎の部分が備わったように感じます。文化の違いによる学びも多くあり、当然ではありますが、日本で礼儀正しいとされるエチケットが海外では礼儀正しくないと捉えられることもあるようで、文化とは非常に奥が深いと感じました。たった3週間では有りましたが、今回のプログラムに関わったすべての人に感謝し、今後も英語への関心を絶やすことなく生活していこうと思いました。